



平成18年5月2日

各 位

会社名 株式会社 飯 田 産 業  
代表者名 代表取締役社長 森 和彦  
(コード番号 8880 東証第一部)  
問合せ先 取締役執行役員 財務部長  
石丸 郁子  
(TEL. 0422 - 36 - 8848)

### 業績予想の修正について

当社は、最近の業績の動向等を踏まえて、平成18年3月17日付の「平成18年4月期第3四半期財務・業績の概況(連結)」記載の連結業績予想および平成17年12月15日付の「平成18年4月期個別中間財務諸表の概要」記載の単独業績予想を次のとおり修正いたします。

#### 記

#### 1. 平成18年4月期連結業績予想数値の修正

通 期 (平成17年5月1日~平成18年4月30日)

(単位:百万円)

|                             | 売 上 高   | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|-----------------------------|---------|---------|-----------|
| 前回発表予想(A)<br>(平成18年3月17日発表) | 122,564 | 11,102  | 6,378     |
| 今回修正予想(B)                   | 108,600 | 7,360   | 4,460     |
| 増減額(B-A)                    | 13,964  | 3,742   | 1,918     |
| 増減率                         | 11.4%   | 33.7%   | 30.1%     |

#### (ご参考)

|                   |         |       |       |
|-------------------|---------|-------|-------|
| 前期実績(平成17年4月期)(C) | 101,938 | 8,066 | 4,365 |
| 増減額(B-C)          | 6,662   | 706   | 95    |
| 増減率               | 6.5%    | 8.7%  | 2.2%  |

## 2. 平成18年4月期単独業績予想数値の修正

通 期 (平成17年5月1日~平成18年4月30日)

(単位:百万円)

|                               | 売 上 高   | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|-------------------------------|---------|---------|-----------|
| 前回発表予想 (A)<br>(平成17年12月15日発表) | 118,800 | 11,290  | 6,396     |
| 今回修正予想 (B)                    | 104,700 | 7,790   | 4,440     |
| 増減額 (B - A)                   | 14,100  | 3,500   | 1,956     |
| 増減率                           | 11.9%   | 31.0%   | 30.6%     |

(ご参考)

|                   |         |       |       |
|-------------------|---------|-------|-------|
| 前期実績(平成17年4月期)(C) | 101,297 | 8,508 | 4,814 |
| 増減額 (B - C)       | 3,403   | 718   | 374   |
| 増減率               | 3.4%    | 8.4%  | 7.8%  |

## 3. 修正の理由

経済環境は、全体としておおむね改善の方向にあり、不動産業界におきましても、同様に推移するものと予測しておりましたが、当下期において発生したマンションの「耐震強度偽装事件」は、戸建分譲住宅業界には直接の関係はないものの、若干の間接的な影響を与えるなど予想外の部分もありました。

当社としては、住宅性能表示対応のS I住宅の積極的な展開、耐震実験によって実証された優れた耐震性能のより積極的なアピール、更なるコスト対策の実施等の他社差別化戦略を遂行してまいりましたが、以前として土地仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できる状況には至らなかったこと、及び一方で競争の激化もあったため、業績予想を修正するものです。

\* 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報および将来の業績に与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上